（様式）

令和7年度　学校園評価　学校園関係者評価書

学校園名	三木市立三樹幼稚園

1 学校園教育目標

〇健康でがんばる子（・強い体と豊かな心をもつ子・何事にも最後まで頑張る子）

〇遊びを考え出す子（・自分から進んで遊ぶ子・友だちと一緒に工夫して遊ぶ子）　〇助け合う子（・友だちの気持ちがわかる子・友だちと力を合わせる子）

2　本年度の重点目標

〇子どもたち一人一人が好きなこと、やってみたいことを見つけ、それを十分な時間の中で試したり確かめたりしながら実体験を重ね、自ら感じたり考えたりすることや自己実現を果たすことを存分に楽しむ。
〇友だちの存在に気づき、一緒に遊んだりかかわったりする中で、思ったこと・感じたことを出し合いながらクラスや園全体で共有することで、所属感を深め、心から認め合うことの充実感を味わう。
〇保育者は子どもと共に楽しみながら、子ども主体の活動に寄り添ったり、時には保育者が意図してはたらきかけたりする中で、子ども主体・大人主体のいいバランスを保てるような柔軟な支援を心掛ける。

3　自己評価結果（達成状況）【　A：達成している　B：概ね達成している　C：あまり達成していない　D：達成していない　】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取組(達成）の状況	評価	改善の方策
教育課程・指導	〇子どもたち一人一人の発達段階や幼児理解を細やかに把握し、個々に合わせた指導を心掛ける。 〇保育内容や普段の生活の中で、子どもたちの学びや意義を意識してはたらきかける。	〇常に全ての職員で全ての子どもたちを見ていくよう心掛けている。職員それぞれの持ち味を活かしながら、子どもたち一人一人の良さを引き出せるよう、保育にあたっている。 〇今年度は米作りを通して主体的活動を高めることができ、学んだことを兵庫県国公立幼稚園・こども園教育研究会にて発表し、子どもたちの成長や保育の成果を多くの方に発信することができた。	A	〇今後も全職員が全園児の保育にあたる気持ちで取り組み、子どもの良さも職員の良さも認め合い、生かしながら幼児教育をすすめていきたい。 〇今後も子どもたちの意欲を高め、主体的活動へと発展していくような保育者の幼児理解やはたらきかけを心掛けたい。
道徳・人権教育	〇遊びや生活の中に必要なルールや善悪の判断があることに気づき、心掛けようとする。 〇身近な自然とのかかわりの中で直接体験や感動体験を通して思いやりの気持ちや協同する態度を育てる。	〇友だちとの思いが異なる場合には、お互いの気持ちに気づかせながら、より良い解決策を周りの仲間も一緒に考えていけるようはたらきかけている。 〇園庭でいろんな幼虫を見つけ、世話をしたり、顕微鏡で観察したりして様々な種類のチョウへと育てることができ、命の尊さや思いやりの気持ちを育むことができた。	A	〇子どもたち自身が自ら感じたり、考えたり、行動したりできるようはたらきかける。 〇職員自身の人権感覚を磨いていけるよう、研鑽を重ねる。 〇今後も様々な実体験とそこから得られる感性を大切にし、保育者も一緒に共感しながら、感じたことを学びに繋げていく。
特別支援教育	〇保護者に寄り添いながら、一人一人への支援の方向性を見極め、成長へと繋げる。 〇関係機関・専門機関との連携をしながら、適切な支援を心がける。	〇個々の成長や課題を職員間で共有し、個に応じた支援を心掛けている。その思いを保護者とも共有しながら、ともに同じ方向に向かって子どもの成長を支えて行けるようはたらきかけている。 〇市教委や関係機関と連携し、より専門的な指導助言をいただきながら、子どもたちの成長過程に寄り添いながら取り組んだ。	B	〇保護者との連携を密にしながら、子どもの成長をともに喜び合える関係を築いていきたい。 〇今後も様々な指導助言をいただきながら、多面的に子どもの姿を捉えられるよう研修を重ねる。
家庭・小学校等・地域との連携	〇「キラリポイントシート」をはじめ行事や参観、各種便り、ドキュメンテーション、HP等の中で子どもたちの学びの場面を伝える。 〇昨年度同様、業間交流の場を設け、心の交流を重ねながら、小学校生活への楽しみや期待を持てるようにする。	〇昨年度から毎週火曜日に定期的に1年生との交流を重ね、その中で小学校への安心感や憧れの気持ちが育っている。また、交流の回数を重ねることで主体的活動にも繋がり、双方にとって学びのある交流に発展している。 〇今年度は、お米の博物館を通して3年生、5年生をはじめ地域の方との交流にも発展し、多くの人とかかわる機会をもつことができ、自信や充実感を味わうことができた。	A	〇今後も様々なアプローチから子どもの成長に保育者の意図や願いも添えて発信できるよう心掛けたい。 〇業間交流を負担なく長く続けられるよう引継ぎ、幼小で学びを共有できるよう工夫する。 〇地域とかかわる機会を積極的に求め、地域の中で育つ良さを子どもたちの学びに繋げる。
健康・安全教育防災教育	〇避難訓練の意味や必然性を知り、子どもたちが自らの命を大切にする意識をもてるようにする。 〇身体を使って遊ぶ遊びを意図的に保育に取り入れ、健康な心と身体の育成をめざす。	〇本園が浸水想定区域に指定されていることから、今年度も小学校の3階に素早く駆け上がって避難する取組を実施し、災害意識を高めた。 〇巧技台やタオルなどを使って友だちと体を動かして遊ぶ「からだぐんぐんタイム」に取り組み、体の部位や動きを子どもたちが意識しながら遊びを楽しめるよう取り組んだ。	B	〇来年度は実際の緊急時避難場所である三木市コミュニティースポーツセンターにも避難訓練に行けるよう計画を進めていく。 〇子どもたちにとって楽しい活動が身体の育ちにも繋がるよう、保育内容を工夫し、積極的に取り入れていく。

4　自己評価方法の適切さについての学校園関係者評価

〇評価の観点の5項目は良い按分となっており、それぞれの取組内容も分かりやすく、具体的でバランスよく明記されている。
〇子どもたちの学びの足跡を全職員で情報共有し、きめ細やかに保護者と連携してスモールステップで自己評価できている。
〇アンケートの設問も評価の観点に即して設定されており、保護者・職員とも真摯に答えられており、取組→達成→改善へと生かされている。

5　評価の観点ごとの学校園関係者評価

学校園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
評価Aは適切である。 〇子どもたちに真摯に向き合って保育をしているのが分かる。子どもたちの主体性を大切にして一から様々な実体験ができ、保護者も子どもと一緒に楽しむことができている。 〇生活発表会を見ていると、子どもたちがのびのびと活動に参加できていて、自分たちで活動を進めているのが感じられ、堂々と発表していた姿が印象的だった。
評価Aは適切である。 〇今年度の米作りでは、その過程を子どもたちが本当に一から全て経験し、育てた米を食し、生命を大切に思うところまで達成されており、それらが成功体験として子どもたちの心に残る実践となっている。また、米作りからフィリピンの文化の交流にも発展し、多文化理解にも繋がった。
評価Aでも良いと考える。 〇きめ細やかな保育者の気配りが感じられ、園全体が温かい雰囲気である。保護者の方の協力もあり、家庭力の高さが感じられる。 〇近年、子どもたちの姿も多様化している。本園の居心地の良さをこれからも大切にしていただき、より幼児理解が深まることを期待したい。
評価Aは適切である。 〇少人数の園だが業間交流のかかわりで知り合いの小学生が増え、子どもたちの自信に繋がっておりとてもいい取り組みだと感じる。 〇小学校の評価委員会でも、幼小交流について園と同じ記述があり、双方が本当に交流をプラスに捉えておられるのが分かった。 〇現在、中央公民館とは秋の文化祭とおひなさまイベントで作品を通して交流を持てている。今後さらに公民館での活動に積極的に誘い合えるよう関係を密にしていきたい。
評価Bは適切である。今後ののびしろに期待する。 〇三木市コミュニティースポーツセンターへは、安全配慮を踏まえながら、親子で行くイベントにしてみるのはどうか。 〇外で遊ぶ経験が少なくなった今の子どもたちにとって、園庭を使って遊ぶだけでも身体の育ちに繋がる。さらにぐんぐんタイムで楽しく遊ぶ中で、子どもたちが知らないうちに保育者のねらいも達成されている活動になればさらに効果的である。